

平成 30 年 8 月 26 日現在

機関番号：17102

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2018

課題番号：15KK0091

研究課題名（和文）ダイナミック・ケイパビリティ形成プロセスの理論的・実証的研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Theoretical and empirical research on dynamic capabilities(Fostering Joint International Research)

研究代表者

朱 穎 (Shu, Ei)

九州大学・経済学研究院・准教授

研究者番号：50334610

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,500,000円

渡航期間： 14ヶ月

研究成果の概要（和文）：2017年4月～2018年5月までDuke大学にVisiting Scholarとして滞在し、Arie Lewin教授との共同研究を集中的に行った。主に二つの研究成果を得ることができた。まず、Lewin教授との2本目の共著論文は目処がついた。この研究は既にアメリカ経営学会2017年次大会にて研究発表を行い、現在北米有力ジャーナルへの投稿最中である。そして、二つ目の研究はbehavioral strategyに注目し、企業能力のmicro-foundationな部分を解明する方向で行った。北米の有力学会での研究発表を経て、単著論文として北米有力ジャーナルへ投稿し、修正後再投稿との評価を得ている。

研究成果の概要（英文）：In order to accelerate this international joint research, I was staying at Duke University as a visiting scholar from April 2017, working intensively with Prof. Arie Lewin in the Fuqua School of Business. Two major research outcomes have been achieved during this research program. Firstly, Prof. Lewin and I have made great progress on our second co-authored paper on social movement and firm's strategic actions. Secondly, my independent research project in focusing on behavioral strategy and dynamic capabilities is now under the revision. I also have presented at refereed international conferences and seminars, with a total of seven presentations.

研究分野：経営学

キーワード：ダイナミック・ケイパビリティ 認知的バイアス 戦略の行動学的研究 制度的環境

1. 研究開始当初の背景

本国際共同研究の目的は基盤研究(C)で採択された基課題の初期的成果を格段に進展・拡張させるため、海外共同研究者(Duke大学Arie Lewin教授)との共同研究活動を重点的かつ集中的に行うことにより研究成果を学術的・国際的に情報発信していくことにあった。

これまでの既存研究では、ケイパビリティの機能的側面を強調した議論(Teece et al., 1997)から、組織プロセスに注目した議論(Eisenhardt and Martin, 2000)まで、経営戦略論の分野において様々な研究が展開されてきた。しかしながら、既存研究の多くはいずれもダイナミック・ケイパビリティの重要性及び概念の精緻化を図る方向で展開されてきたため、実際にそれがどのように構築されているのか、というプロセスについての実証が不十分である。

本研究の従来目的は、こうした問題設定を更に発展・拡張させていく形として、ダイナミック・ケイパビリティにおける従来の機能論的アプローチではなく、ケイパビリティのもつ組織論的、認知科学論的要素に注目し、その背景にある認知的バイアスのコンテキストにおいて掘り下げて体系的に分析することにあった。そのため、近年脚光が浴びている「組織デザイン」や、組織の問題解決アプローチ(Problem Solving Perspective)の理論に注目し、特に「組織ストラクチャーと外部環境との相互依存的適合」の概念を掘り下げ、ケイパビリティにおける組織内調整メカニズムの構築及び組織デザインの役割を解明することにあった。

2. 研究の目的

欧米ですすめられてきた最新の経営学研究では、ケイパビリティの持つ組織論的、心理学的、更に認知科学の分野からのアプローチが増えており、環境変化に対する認

知的枠組み、組織内メカニズムといった要素が強調されている(Ocasio, 1997; Lewin et al., 2011)。また、組織ストラクチャーと外部環境との相互依存的適合(Interdependent fit)及び、組織デザインの複雑性理論(Complexity theory)など、組織と市場環境の境界に関する研究は最近注目されつつある。しかし、これらの論点についての理論的精緻化と実証研究の蓄積が遅れており、ここに本研究の目的があった

3. 研究の方法

主に文献サーベイと実証研究の二つから構成されている。まず、欧米の先行研究を参考に、幅広い文献サーベイを行った。いわゆるオーソドックスな競争戦略論の観点から文献レビューを行い、特に批判的な観点からオーソドックスな競争戦略論の中で解明されていない問題点の抽出に力を注いだ。そして、近年欧米で盛んに行われているBehavioral strategyの観点に注目し、ダイナミック・ケイパビリティの形成プロセスにおける企業行動理論(Behavioral Theory of the Firm)に基づく分析観点の確立が重要であることを再確認した。その上、さらにこの研究の独自性を引き出すため、Behavioral Strategyの中で、近年再注目され始めている「プロブレム・フレーミング」という視点に注目し、それによるダイナミック・ケイパビリティ形成プロセスの解明に関する分析枠組みを試みることに辿りついた。

理論モデルの構築について、Duke大学の共同研究者をはじめ、海外研究者とのディスカッションを通じて、理論構築の精緻化に向けての情報収集やフィードバックの獲得に力を注ぎたい。第2に、実証研究としては、Duke大学の図書館及び産業分析に関する豊富なデータベースを活用し、二次データの収集、アーカイブ資料の分析を行っ

た。さらに、一次資料の収集に関しては、業界関係者へのインタビュー調査を実施し、インタビュー資料及びアーカイブ資料のトリアンギュレーションを行った。データ分析手法としては、Nvivo ソフトウェアを応用し、インタビュー資料及び二次資料のオープン・コーディング分析を行い、カテゴリ化された次元分析、更にコンセプトモデルを構築した。

4. 研究成果

2017年4月～2018年6月上旬にかけて Duke 大学に Visiting Scholar として滞在し、The Fuqua School of Business の Arie Lewin 教授との共同研究を重点的かつ集中的に行った。当初の研究目的を拡張した形として、企業能力形成の内部メカニズムの解明だけではなく、企業活動を取り巻く制度的環境に着目し、組織と外部環境のインターセクションな部分に焦点を絞って、理論構築及び実証研究を行った。こうしたインターセクションな部分に焦点を当てた研究成果として、Lewin 教授との共著論文は Organization Studies に正式に刊行された。この分析観点は経営資源が制約されているスタートアップ企業や、アントレプレナーシップ型企業の初期成長戦略に対して重要なインプリケーションをもたらすことが期待されている。

この研究成果を更に拡張する形として、2本目の共著論文は社会的制度的環境と企業戦略のインターセクションな部分に注目し、社会的制度的プレッシャーに対する企業の異なる反応に注目し、企業戦略変遷のプロセスモデルを構築しようとしている。なお、この2本目の共著論文はアメリカ経営学会の2017年次大会のペーパー・セッションに採択され、研究発表を行った。

そして、ダイナミック・ケイパビリティの概念に焦点を絞った研究では、当初こ

の概念のサブカテゴリに注目し、よりダイナミック・ケイパビリティの概念を細分化する形で行った。その後、北米での学会報告及び同研究領域の研究者とのディスカッションを通じて、当初の研究目的を更なる拡張として、近年注目されつつある behavioral strategy との融合を図る方向で進められるようになった。なお、この新たな方向性は企業の研究開発活動について、認識論及びモチベーション論の中で近年注目されている Regulatory Focus Theory を応用し、広く言えば、企業能力の micro-foundation な部分を解明することを目的にしている。Regulatory focus 理論を既存のフレーミング理論と統合する形で新規性があると認められている。また、Regulatory focus の議論は従来心理学の分野で展開され、新製品開発という技術的不確実性が高い文脈において研究が少ないため、本研究は実証的に貢献することが期待されている。更に、Regulatory focus の分析視点は従来、Promotion framing, Prevention framing という二つの分類があるのに対して、この研究では Mixed framing という第三の分析カテゴリ加えられているところには貢献が認められている。

なお、関連する学会発表としては、戦略論研究で定評のある Strategic Management Society Special Conference, 及び Annual Conference において2回の研究発表を行った。また、カナダマニトバ大学 Asper Business School, Aarhus University(デンマーク)に招聘され、研究セミナーを行った。こうした研究発表の機会から得られた様々なフィードバックを元に、単著論文を作成、北米有力ジャーナルに投稿した。現在修正後再投稿との評価を得ており、今後レビューコメントへの対応に力を注いでいきたいと考えている。

5. 主な発表論文等
(研究代表者は下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① Shu, Ei. & Lewin, A. Y. 2017. A Resource Dependence Perspective on Low Power Actors Shaping Their External Regulatory Environment: The Case of Honda. *Organization Studies*, Vol 38 (8): 1039-1058. 査読有り

[学会発表] (計 7 件)

- ① Shu, Ei. 2018. Framing and Reframing Process on New Product Development. Invited seminar at *Aarhus University*, Denmark.
- ② Shu, Ei. 2018. Low Power Actors Shaping Regulatory Environment: A Resource Dependence View. Invited Seminar at *Chinese Academy of Science*, Beijing, China.
- ③ Shu, Ei. 2018. Framing and Reframing Process on New Product Development in an Established Firm. *Academy of Management Annual Meeting*, Chicago, IL.
- ④ Shu, Ei. 2017. A Problem-Solving Process for Developing Capabilities. *Strategic Management Society Annual Conference*, Houston, TX.
- ⑤ Shu, Ei. & Lewin, A.Y. 2017. Firms Strategic Actions to Social Movements and the Co-Creation of Institutional Opportunities. *Academy of Management Annual Meeting*, Atlanta, GA.
- ⑥ Shu, Ei. 2017. Low Power Actors Shaping Regulatory Environment: A Resource Dependence View. Research Seminar at Asper School of Business, University of Manitoba, Canada.

- ⑦ Shu, Ei. 2017. Problem Framing and Problem-Solving Process on Capability Development: The Case of an Established Firm. *Strategic Management Society Special Conference*, Banff, Canada.

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

6. 研究組織
(1) 研究代表者

朱 穎 (SHU EI) 九州大学・大学院経済学研究院・准教授 研究者番号：50334610

(2) 研究協力者
〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

Arie Lewin・Duke University・The Fuqua School of Business・Professor

〔その他の研究協力者〕